

KTK ひゅうまん 京都

No. 542 2022年1月号

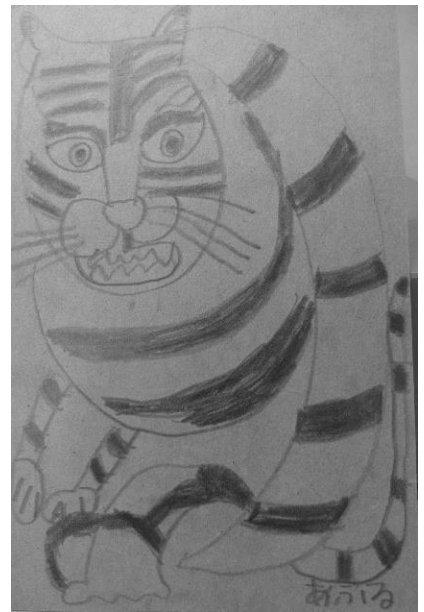
編集/京都障害児者の生活と権利を守る連絡会 〒603-8324 京都市北区北野紅梅町85 弥生マンション内
編集発行責任者/池添 素 電話&FAX(075)465-4310 購読料 1部80円 年間購読料1,000円(送料実費)

- P.1 左大文字 つどめ
- P.2 常任委員会から 池添 素
- P.3 障害のある人の暮らし 沖田友子
- P.4 血の染みついたボタン 中村 暁
- P.5 人生の伴奏者 井上吉郎
- P.6 ジョニーの炸裂日記 ライスチョウジョナ
- P.7 つれづれあらぐさ 中山 恵美子
- P.8 2+2=詩 富士一文
- P.9 障害のある人の権利を守る北陣連から 濱中 博
- P.10 365歩のマーチ 安藤 史郎
- P.11 新年のご挨拶 松本 美津男
- P.12 コロナ禍に学んだこと 大西里江

謹賀新年▲コロナ禍のために映画館に足を運ばずに見逃した『MINA MATA・ミナマタ』を観た。公開(去年9月)から半年もたないのにもうネット配信とは驚いた▲写真家ユージン・スミスがMINAMA T Aに関わるに至った経緯にも興味はあったのだが、それ以上にこの映画の製作・主役を演じたジョニー・デップに思いがいった。世界各地で発生している公害問題がこれでもかとはばかりにエンドロールに流れ、関係者へのリスク溢れる言葉で締めくくられた。「本作を水俣の皆さんと世界中の公害被害者及び支援者たちに捧げます」▲映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」シリーズの主役を張り、私生活ではDV騒ぎも起こしアウトロー然とした彼のイメージとMINAMATAが結びつかなかった。調べていくうちに彼のもう一つの顔を知った。初期の作品「ギルバート・グレイプ」「妹の恋人」では障害のある家族や恋人を護る役を演じていた。いまでいうヤングケアラード▲インディアン・チェロキー族の血を引くという彼の出自も知った。米国社会で差別・排除されるインディアン家族を描いた「ブレイブ」(1997)で、彼は主役・監督・脚本の3役をこなしている▲存在を無きものとされる不条理。公害、障害、先住民等々社会の主流から疎外・冷遇され鬱屈して暮らすことを余儀なくされてきたマイノリティへの親和性がデップには宿っているのだろうか。「パイレーツ」の髭面デップにそんな思いを重ねた正月だった。

つどめ

左大文字



「壬寅」
渡辺あひる

常任委員会から

〈寅年〉

皆さんどんな年末年始を過ごされたでしょうか。雪が降る大晦日、寒いお正月、加えてコロナの感染再拡大と、気持ちが晴れる話題は少ない新年でした。迎えた2022年は選挙選挙の年です。沖縄では市長選挙が目白押し。足元の京都は、春の京都府知事選挙、そのあとは参議院選挙が控えています。しかし、その隙間に、大問題がいつぱい隠れています。京都市の財政再建計画の暴挙、市民の憩いの場所を壊す植物園を中心とする北山エリアの大規模開発、京都の地形を無視したリニアカーを無理やり通す計画、仁和寺前の景観を壊すホテル建設など、どれも無茶苦茶な計画ばかり。市民の暮らしやコロナ対策こそ、い

の一番の課題だと思おうのですが、知事と市長の気持ちはそうではないらしい。そうなるとうちとして首長選挙に市民の意思を反映させられる選挙にしたいと考えるが、そこは簡単ではないのが悩ましいところ。コロナの感染拡大が予想を超えるスピードで広がっている事実を目を向け、これからもコロナとの闘いは続くとき、この社会で暮らすために必要な自治体の在り方を考える必要があります。市民の暮らしを見据えて施策を考える自治体づくりは、市民一人一人の宿題だと思います。

〈保育が大変〉

京都市の財政難のとばっちり子どもに向けようとしている京都市政は、保育所の運営費を支えているプール制に手を付けて、抜本的に見直そうとしています。給与の低い保育士の待遇改善を目的に50年前に導入された制度。京都市は適切でない使い方がされているとして、見直しと言っていますが、実際に保育士の給与を全国平均にまで引き上げ、経験の長い保育士の雇用や支援の必要な子どもに対しての手厚く保育体制をとるころなど、保育を充実させるために使われています。現状では具体的にどのぐらい削減されるのかもはっきりしておらず、すでに来年度の入園児も決まりかけている中で、予算も立てられない不透明な状況が生まれています。支援が必要な子どもがたくさんいることや、保護者の厳しい働き方、そしてコロナ禍でも子どもの育ちと働く保護者の就労を支え続けてきた保育現場です。京都市政は、財政難のしわ寄せを子どもたちにするのではなく、安心して預けられる、安心して働き続けられる保育に

〈新連載始まる〉

なるように最大の努力することを望みます。

「縦のバリアフリー」をめざして闘ってきた裁判が原告の訴えが認められた形で終わることができました。その原告のジョナサンに、その後も連載執筆をお願いしたら、快く引き受けてくださいました。今度は縦だけではなく、縦横に語っていただけだと楽しみにしています。もう一つは、井上吉郎・本紙編集長の、「人生の伴走者」です。『ひゅうまん京都』は障害種別や分野を超えた様々な情勢をお届けできる内容だと思っています。今年もたくさんの方に読んでいただけのように、充実した紙面づくりをしたいと思います。今年もどうぞよろしく願います。

池添素(京障連事務局長)

障害のある人の暮らし

誰とどこに住むか選択できる権利を！

沖田友子

息子が入居するグループホームから見えてくるもの⑦

2022年が始まりました。

10月にグループホームの金曜宿泊がなくなり、自宅に戻る生活が始まっていました。それと同時に金曜ホームで宿泊してもらえヘルパーさん探しをしてみました。ホームの職員の宿泊は

そりして帰宅するので、どうなることかと思っていました。宿泊を重ねるごとにヘルパーさんから「耳を触ってください」と聞き、「寝るときに私の耳を触るのが好きなんです、きつともうすぐ慣れて寝てくれると思います」と話していました。

はななくが、ヘルパーさんと重度訪問介護の制度利用での宿泊はしてもかまわないとのことでした。幸いに12月から可能という事業所がみつかり、日中活動の様子を見ていただいたり、何度か顔合わせを行い、「金曜はホームでヘルパーさんと泊まる」ということを始めています。最初2週間は「一睡もしません

そして、年が明けて今日は初めての金曜宿泊、なんと6時間一度も起きずに寝ていたそうです。帰宅時も顔色が良く、夕食もパクパクと食べることもが得意、好きなクラシックを聴き、拍手をして満足げな様子です。ほぼひと月で新しいヘルパーさんとの距離を縮めてくれたこと、嬉しく頼もしいです。

いあざを発見し、どうなっているの、なぜこんなことに…、ということがありました。「検証しませんがわかりません」言葉がないため、どこで何が起きたのか明確なことがわからない、同じようなことを繰り返している。わからないうで済ませられることに怒り、悲しみ、落胆、様々な気持ちが交錯します。でもあきらめるわけにはいきません。声を出し続けて少しでもこのよくなことが起きない支援をしてもらいたい、支援の内容を見直してもらいたいと思います。あざができてくるのは事実ですから、どこかにやり方の不備があると思うのです。

年末には太ももの内側に直径15センチくらいの赤い痛々し

私生活が成り立っていることには本当に感謝しています。笑って楽しい思い出がたくさん

作れますよう、今年もめげずに丁寧に話すことを大切にしていきたいと思えます。



人生の伴走者 ①音楽

本紙編集長 井上吉郎

731部隊と「悪魔の飽食」

合唱組曲「悪魔の飽食」(森村誠一・原詩、池辺晋一郎・作曲)は、731部隊の狂気を謳いあげ、告発した。

♪私はストッププウオッチを握った／ガラス張りのチャンバの中／ロシア人母と子のマルタ／／ここで生まれ ここで育った／女の子は4歳 栗色の髪／母マルタの胸に 顔を埋めていた／顔を上げる子供マルタ／そのあどけない瞳／(ナレーション)／ガス注入／最終秒読み開始／5、4、3、2、1、ガス注入！／私はストッププウオッチを押し／我が子を我が胸に抱き寄せる／ロシア人母のマルタ／その時吹き出した青酸ガス／母は子をかばう 吹きかかるガス・・・♪

731部隊では、ペスト菌、コレラ菌、チフス菌、炭疽菌、

マラリアなどあらゆる病原菌の感染実験が行なわれた。「マルタ」を病原菌に感染させ、細菌の効果やワクチンの「効果」が「研究」された。「マルタ」が死

に至る寸前に生体解剖も行なわれた。細菌が生きた人間の臓器にどのような影響を与えるのかを調べるためである。細菌兵器の開発も行なわれた。凍傷対策のため731部隊では凍傷実験が行なわれた。

ガラス張りの実験室に「マルタ」を入れ、毒ガスで死亡していく経過を記録していった。731部隊の現地を見て思ったことがある。「戦争犯罪」では片づけることができない、残酷性があるということであり、「エリート科学者」が、戦争への加担とともに、「功名心」に促わられてい

たということだ。想像するに、「エリート科学者」は人間を「捕虜」なるがゆえに、「実験材料」としてしか考えていなかったのではな

ないか。京都帝大出身者の「悪魔の所業」を見聞するにつけて、「エリート科学者」を生みだした構造を考えた。

浅沼稻次郎の死去とベートーベンの交響曲第6番「田園」
日本社会党委員長の浅沼稻次郎は、1960年(昭和35)10月12日に日比谷公会堂で、演説中に浅沼が17歳の右翼・山口二矢に刺殺された。総選挙を目前にした自民・社会・民社三党党首公開生活会演説会中の事件だった。〈ひたすら歩むことでようやく辿り着いた晴れの舞台で、六十一歳の野党政治家は、生き急ぎ死に急ぎ閃光のように駆け抜けてきた十七歳のテロリストと、激しく交錯する〉(沢木耕太郎「テロルの決算」)。

短刀を手にした右翼少年・山口が、演壇に立つ浅沼に向かって駆け上がる。浅沼の動きは緩慢だった。ほんのわずかすら体かわすこともせず、少し顔を向け、訝しげな表情を浮かべたまま、左脇腹でその短刀を受けてしまった。短刀は浅沼の厚い脂肪を突き破り、背骨前の大動脈まで達した(同前)。浅沼はまもなく絶命した。

8日後に行われた社会党葬は、冷たい雨の降るなか、2600人余の参列者を得て行われた。会場は、事件と同じ公会堂だった。会場にベートーベンの第6番『田園』が流れた。浅沼が好んだ曲だった。各楽章に次のような標題が付されている。♪「田舎に到着したときの愉快的感情の目覚め」／「小川のほとりの情景」／「田舎の人々の楽しい集い」／「雷雨、嵐」／「牧歌 嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち」♪。ラジオで耳にした曲は「人生の曲」になった。16歳になったばかりの僕だった。

ジョニーの炸裂日記1

ライスチョウジョナ（イラストレーター）

あけましておめでとうござい
在 28 歳。京都市内の訪問介護事
業所で役員として働きながら漫
画やイラストを描く仕事をして
います。「過剰自己貪食を伴う x
連鎖性ミオパチー」という先天
性の筋力が衰えていく病気を持
ち、基本的に車椅子の生活。現
在は同じ病気の弟と協力しなが
ら 2 人暮らしをしており、24 時

間ヘルパーさんによる介護を受
けることになり、勢い余って「一
人で書く！」と言ってしまった
ものの、果たして何を書けば良
いか随分迷いました。これを書
いている今も決めず先行き
わからず書いています。

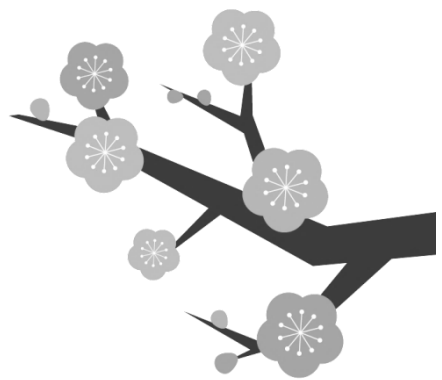
しかしとりあえず、今回から

書くこれはある意味「新連載」
となるわけですので、自己紹介
を改めてさせていただきたいと
思います。

私、ライスチョウジョナは現

くのが好きだったのと、あまり
紹介することは他にもあるか
もしれませんが、私のことを紹
介する際にやはり特筆すべきは
漫画やイラストを描く仕事をし
ているということ。元々絵を描

外に出て遊ぶ機会が少なかつた
こともあり、幼少期よりずっと絵
を描き続けてきました。小学生の
頃に偶然手に取ったギャグ漫画
を読んだことがきっかけで、子供
の頃から「漫画家になること」を
目指してきました。その後、基本
的な画力を身につけるため市立
銅駝美術工芸高校に通いデッサ
ンの勉強や日本画を学び、大学は
念願の京都精華大学マンガ学部



に入り多くの著名な漫画家の先
生方の元でレベルの高い指導を
受けてきました。卒業後はいろい
ろなところから漫画やイラスト
の仕事を頂き、コツコツとやらせ
ていただいています。もちろん仕
事は常に募集中です（意味深）。
また、6 年前から「ライブペイン
ティング」というお客さんの前で
大きなキャンバスに絵を描くパ
フォーマンスを始め、更にはそこ
から発展し、音楽とアートをテー
マにしたイベントを定期的に開
催するなど、様々なことに今も挑
戦させていただいています。

何か一貫性のあるテーマで書
けるかわからないので、かなり自
由な連載になるかもしれない
が、ぜひ今後ともジョニーをよろ
しくお願いいたします。内容に困
った時は文章の代わりにいきな
り漫画を描いてくるかもしれま
せんが、とりあえず今日のところ
はこの辺で。

つれづれあらぐさ

あらぐさ福祉会は長岡京市にある社会福祉法人で、障害のある人たちの暮らしを支える事業を行っています。1986年に無認可の共同作業所を開所して以降、日中の通所から生活の場、ヘルパー事業所等、地域で暮らし続けるために必要なものを作り出してきました。今回の連載開始にあたり、「障害者の喜びと悲しみ、家族の喜びと苦悩、職員の働き甲斐と先が見えない苦悩…そういうことが浮き彫りになればと思います」とお話をいただきました。日々自分が経験していることや感じていることを通して、それぞれの一場面を綴れたらと思います。なお、内容については個人情報に配慮して構成しています。

場面② 新年、年賀状で学生

時代をふりかえる

今年も、学生時代の友人や先輩・後輩から年賀状が届きました。大学では社会福祉を学んで作業所のボランティアをしていたので、福祉分野で働いている人または働いていた人たちがほとんどです。異動・転職・退職・育児・職場復帰等々、年1回の年賀状で近況を知ることになります。就職氷河期といわれていた大学4回生の頃、周囲の就職活動にかける熱意は相当なものでした。進学希望だった自分は、「就活って大変や」「うちには無理かも」と圧倒されたのを覚えています。就職してしばらく経つと退職する人も多く、「3年の壁」と言われていた現実を知りました。年賀状の一枚に、「3月末で、20年勤めた職場を退職することに決め

ました。しばらくゆつくり過ごすつもりです。」とありました。彼女とは、大学1回生のゼミからの付き合いです。授業の合間に大学の喫茶でワッフル三昧、本場のうなぎを目指して浜名湖に出かけ、北海道旅行では塩ラーメンの後に「おなかすいた」とウニ丼を食べました（ふりかえると、食べものばかりの思い出です）。

卒業後も定期的に会い続け、一足早く児童関係の職場で働き始めた彼女から保育や療育のことを教わったり、成人期につながるライフステージの話をしたりしてきました。ここ2年ほどコロナ禍で会っていなかったのですが、あらぐさのクッキーと

パウンドケーキが大のお気に入りです。カタログ販売の際は注文がありません。いろいろな経過や事情があつてのことだろう彼女の決断に、「二十年かあ…」となんだかしみりしました。

一方で、全障研で一緒の人からの年賀状には、「なかなか会えませんが、いつもどこかで中山さんが働いておられることが私を励ましています」と、嬉しい言葉が届きました。この間は対面で会うことが難しく、オンラインでのやりとりが続いています。以前のような取り組みが出来るや職種が違ってもつながりが自分自身の支えになっていることを改めて実感しました。



年明け、「年賀状届いた?」「中山さん、次何年生なんの?」と、利用者さんがやってきました。そういえば:「4月から、二十年生やわ」。3年目を迎えた『つれづれあらぐさ』今年も一年間よろしく願います。

中山 恵美子(あらぐさ福祉会)

2+2 詩

「冬」

冬の夜はなんだか深い。

澄んだ空気がスコンと上まで抜けていて

空の彼方の彼方まで見渡せそうな気がしてくる。

星の光もいつもより明るくはつきり見える気がする。

寒さに首をすくめながら

耐えられなくなるまで夜空を見上げていた。

寒い夜はなんだか寂しい。

締め切ったはずの窓から差し込むように

寒気が部屋の中に入ってきて

心細さが心のなかに染み入ってくる。

逃れるように布団に潜って

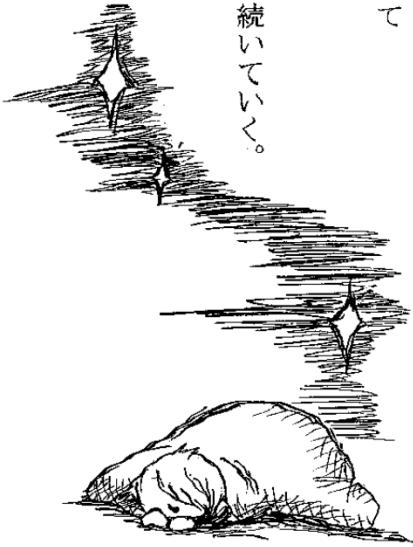
気持ち慰めるように楽しいことを考えていた。

そうして、そうして

春が来るまで

春が来るまで

深くて寂しい夜は続いていく。



「犬好きのつぶやき」

犬は可愛い

とっても可愛い

柴犬はシンプルに可愛いな

シェパードンはかっこよくて可愛いよ

ダックスフントは小さくて可愛いさ

トイプードルはふわふわで可愛いんだ

レトリバーはとほけて可愛くて

パグは不細工で可愛いね

犬は可愛い

みんな可愛い

犬好きだから可愛いのか

可愛いから犬好きなのか

考えてみてもわからない

犬に尋ねてみたけれど

可愛く首を傾げるだけだ

「小道」

草むらをそつと押し広げるようにして作られた

細い道を歩いていく。

道を逸れぬよう、

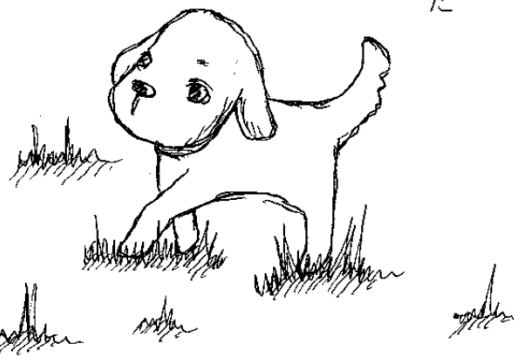
生い茂る草を踏み荒らさぬようおつかかなびつくり。

窮屈そうに歩いてくるデカブツに、

踏まれてはかなわないと

悠々と歩いていた2匹のアリが

迷惑そうにそそくさと立ち去った。



障害のある人の
権利を守る 北障連から
濱中博

「要望活動」は北障連の命

北障連には運動で京都北部の障害者運動を牽引してきた歴史が脈々と引き継がれています。与謝の海養護学校づくり、協同作業所づくり、認可作業所づくりと福祉会づくり等に取り組んで来ました。

毎年、京都府と北部の2市2町へ粘り強く要望書を出し続けています。

京都北部(京丹後市・与謝野町・宮津市・伊根町)には二つの要望書に係わった団体があります。それは「丹障連」京丹後市障害者団体連絡協議会」と「北障連」です。丹障連は、基本的に京丹後市に係わった団体で肢体・聴覚・視覚障害等の幅広い団体です。しかし、2市2町に跨がり、京都府の

府(峰山保健所)の出先機関に要望を出すの北障連です。その意義は大きいです。

峰山保健所へ丹後福祉圏域



丹後福祉圏域の『峰山保健所』に要望書を出しました。京都北部の2市2町で受ける福祉サービースに格差が起ころないように市町を指導して欲しいとの要望を強く出しました。併せて、和みの会(重度重複障害の親の会)の要望書も提出しました。

京丹後市



わんぱく～ぶんぶんの相談支援の修学前療育についての要望

部長以下丁寧に対応して頂きました。親亡き後を見据えたグループ・ホームの計画等についても真摯に回答してもらいました。

学校づくりは「親の会が」中心でしたが、事業所づくりの中で加盟団体が増えていきます。

また、就学前療育事業の「わんぱくクラブ」や重度重複障害児者の親の会「和みの会」等の加盟がおり着実な前進が図られています

与謝野町



与謝野町は要望書の作成にあたって事業所保護者会、守る親の会等の参加も有り10名を超える話し合いになりました。担当課長からは要望書を出し続けることの重要性を指摘して頂き、元氣と勇気をいただきました。回答は文書で初めて出して頂きました。

「継続は、命」の言葉通り要望書運動は、遅々として前進していないようでも、数年のスパンで見ると着実な前進があります。

365歩のマーチ



22 きらきら、たべたい

「これ、からいからあかんよ」

おとなから「○○しなさい」と

と伝えていました。＼そっか、か

言われること、今していることを

らいのか：＼としぶしぶ納得顔

やめるのがいやで、「いつちよま

のようです。ある日、ゆいちくん

え」に言い返してくるようになって

が食べていたおかしがおいしそ

てきました。外で遊んで帰ってき

うなので、「とおとにも、ちよっ

た後に、くつを脱いで部屋のおも

とちようだい？」と聞くと、父の

ちゃですぐに遊ぼうとするゆい

顔をまじまじと見て、「これ、か

ちくん。「帰ったらおてて洗って

らいから、あかん！」。……。ク

から遊ぶよ」と声をかけると、遊

リームの乗ったおかし、それで父

びながら「こちらに視線も向けず

をあざむけると思ったのでしよ

に「なんも、さわってないで」と

うか。いつも＼からいから＼でが

一言。＼なんもさわってないなら

まんしているんだな：と伝わっ

いいか：＼とだまされそうにな

てきました。

ります。いやいや、砂やら手す

※

りやらいろんなところを触りた

人生2回目のお正月でした。昨

くついています。おとなが食べてい

年は、1歳5か月で迎えた正月だ

るものにも興味津々です。父や母

ったのであまり記憶にもないと

が食べているものをほしがった

思います。今年も2歳5か月で、

時に、味付けが濃いものばかりな

「きのう(だいぶ前のこと)だった

り、その日の朝だったりします

くごとに「おめでとう」という

が)、○○したなあ」と、いろんな

言葉とともに渡されるなぞの封

ことを覚え、いろんなことを伝え

筒。自分が子どもだった頃から

てくれるようになりました。そん

景気はだんだんと悪くなってい

ななか迎えた新年、朝からおせち

るのに、おとし玉の相場は上が

料理を食べました。伊達巻や焼き

っている気がします。ロククク

魚など、子どもにとつて食べるも

ライミングのようにタンスに登

のが限られていましたが、ゆいち

ったり、いつもは独り占めのお

くんの目に飛び込んできたのはき

もちやもいとこに取られまい：

らきらと、そして父と母がおいし

と両手で囲って頭を赤ちゃんに

そうに何度も箸を運ぶ「いくら

押しつけて「威嚇」したり：普

でした。「きらきら、たべたい」と

び、お正月を満喫しました。

言うゆいちくん、今まで食べたこ

とがないので、ネットで調べてみ

ると、少量からなら食べても大丈

の、連休明けはおとなも子ども

夫とのこと。2粒ゆいちくんのお

も＼よいしょ＼と気持ちを起ここ

皿に乗せ、おそろおそろ口に入れ

すのは勇気がいります。「ゆいち

ると：ぷちっ！ 今までにない食

くん、ほいくえんいかない」「ひ

感。どうやら味も気に入ったよう

とりでおするばん(お留守番)

で、その後も「きらきら、たべた

する」と朝起きてこなくなり、

い」と何度も食べていました。魅

小さな小さな行き渋りもありま

力的なものをまた一つ知ってしま

したが、いつまでもそう言っ

いました。

いられません。また日常がはじ

1日は母方の実家へ、2日は父

まります。

方の実家へ行きました。実家へ行

安藤史郎(あかひつむす園)

新年のご挨拶

代表委員 松本 美津男

新年にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、京障連主催で「子どもと親のSOSをキャッチする仕組みを考える」シンポジウムを開催し、京都新聞でも大きく報道されました。また、ジョナさんが求めた電動車いすの昇降機能等を裁判で京都市に認めさせました。

京障連も参加する京都市3施設合築方針を考える実行委員会は合築問題を動画でYouTube発信しています。

衆議院選挙では、初めて市民と野党4党が政策協定を結び、政権転換をめざしました。

残念ながら転換には至りませんでしたが自民党幹事長など重鎮を落選させ、僅差の小選挙区も多数生み出しました。

野党共闘の成果と言えるでしょう。

今年も、65歳問題で争っている天海訴訟の勝訴判決を勝ち取らねばなりません。

春には府知事選です。保健所を減らしたまま、大きな自治体負担を伴う北陸新幹線の誘致を進めようとする府政を変える必要があります。

夏には参議院選挙です。

憲法改悪を阻止するため市民と野党の共闘の前進が必要です。

京障連は財政等の問題を抱えています。平和と福祉を守るため頑張りますので、今年もよろしくお願いいたします。



あなたもぜひ
仲間に

サロン・サークル・地域活動展開中
生活支援スタッフ(資格不要)募集中
介護職員(資格要)募集中

ひとりぼっちの高齢者をなくそう
元気な高齢者はもっと元気に

「よろず相談」承ります(随時)



あなたも支える存在に

京都市北区紫野東野町1-5
電話075-432-3636

命の平等をかけた、
無差別平等の医療と
福祉の実現をめざす

働くひとびとの医療機関です

看護師・薬剤師・医師や医療技術者を

目指す方をご紹介ください



京都民主医療機関連合会

〒615-0004 京都市右京区西院下花田町21-3 春日ビル4階

TEL 075-314-5011(代) FAX 075-314-5017

Home Page <http://www.kyoto-min-iren.org>

e-mail: info@kyoto-min-iren.org

ありがとうございます

年会費 谷口敏

寄付 井上吉郎

(敬称略 2022. 1. 10)

コロナ禍に学んだこと

大西里江（京障連代表委員）

私は、重心の支援サービスのことならよく知っているが、他の障がいの支援サービスは全く知らない。もっと色んな障がいの支援サービスを知りたい！学べる二つの出来事があった。

① グループホームのことを知りたい。

グループホームのこと尋ねた。知りたいので、ホームの支援をやってみることに。知ったのは、ホームに訪問看護や、訪問マッサージが来られている。入所と思っていたので、何故？と思って尋ねると、ホームは、在宅ということを知りました。金曜日から月曜日は自宅で過ごされる。

もし、家族が亡くなったらと尋ねる。ある程度までは、グループホームで過ごせるようにしたいと。でも医療行為が始まったら、ホームの生活は無理といわれる。

親御さんは高齢になって、いくつになっても、子どもを看る。親亡き後の問題は、具体的には何もなくて、その場その場の対応しかない。それでは、不安が募る。

ホームのことが少し分かりかけた頃、生活介護ディも知りたいと思った。娘が受けていたサービスとは、大きく違うことは分かっているけど、どう違うのか？生活介護のサービスの支援も経験してみる。全く違う支援を経験。重心の子どもの介護で、どんなに些細なサインも見落とさないように、常に声掛けたり、すぐに反応することが身についている。待つことや、気を逸らすようなこともなかったのだから、待つことが出来ず、すぐに反応してしまって、逆の支援をしてしまう。集中して欲しいから、色んなこと試してしまう。

どんな支援も本人に合った的確な支援でないといけな。本人にとっての支援でないといけなのに、なかなかそれが厳しい！それが、今の福祉現場。本人にとってのベストの支援より、まわりの状態が優先される。本人が、不快なら支援は要らないなあ。ダメと言わない支援。これもなかなか難しい。

② そして、もう一つ子どもたちが元気になるグループに参加させて貰うことになった。

ツチノコ野外倶楽部に参加。親子で参加し、色んなイベントで、親子で楽しく過ごすだけでなく、親子とも学べる。何をしようかと考える。他の家族を見て、自分の家族は？と考える。横の繋がりが出来ていく。助けてと言える勇気。やりたいと言う行動力。一緒にやろうとする協調性。言葉で教えても身につかない。自分で経験していくことがとても大事で、経験によって身につけていく。自分の荷物は自分で背負い、自分で管理する。たった一つのことでも、自分で考えて遣る。それを自然から学ぶ。

月一回の活動をされている。

10年以上も続いているこのツチノコでの活動には、学んだことがたくさんある。長く続けて来られた活動の後ろには、一人のとても頼もしい方と、その頼もしい方のまわりに遣りたいと集まる多くの方がいる。「ツチノコ野外倶楽部は、楽しい」確かに楽しい。色んな経験をさせてもらえるワクワク感。ちょっときつい山道を登れた達成感。困ったことを話して得る共感。私や、私の家族だけではない！

コロナになって、不安ばかりの社会の中で、共に楽しいと思う時間の共有が、人の心を落ち着かせると私は思う。人として、大切なものを経験出来る、それがツチノコ野外倶楽部の魅力の一つと思う。